

種子の採種・ゼラニウムのさし芽・春咲き球根の仮植・常緑樹の植えつけ・根まわし

2004年9月	秋まき1年草の種子まき
朝夕はめっきりと涼しくなり、秋が深まります。植物も暑さがやわらぎ、ホッとひと息ついていることでしょう。夏の鮮やかな花壇もそろそろ終わりに近づきます。台風対策もしっかりと行いましょう。	
庭木の作業	10月初めまでは常緑樹の植えかえ時。
草花の作業	秋まき1年草の種子まきをする。中旬にはストックやキンセンカなどもOK。下旬にはすべての秋まき草花の種子まきを終わらせる。

秋まき草花の種子をまく

春の春用草花は霜が降りるまでの間に株を生育させ、越冬できるようにすることが大切。発芽温度は15～20℃くらいの種類が多いので、適温になったらすぐに種子をまきましょう。秋まきは春にくらべて難しく、適期も短いので、タイミングをはずさないように注意することが大切です。また、種子まき直後は乾燥に注意すること。水やりは表土が乾いているのを確認してから与えるようにします。

●主な秋まきの草花

草花名	花期
アイスランドポピー	5月
カスミソウ	5月
キンギョソウ	5月
スイートアリッサム	4月～5月
ディモルフオセカ	5月
パンジー	3月～5月
ビオラ	3月～5月
ルピナス	4月
ロベリア	5月

種子の採種



花期が終わりに近づいてきたヒマワリやケイトウ、ジニア、ホウセンカといった一年草の種子を採種しましょう。種子は完全に熟しきると風で飛んでいってしまったり、はじけて落ちたりしてしまいます。熟しきる前に作業を行いましょう。採種したものは、表面がカサカサになるまで風通しのよい日陰で乾燥させます。種子はビニールや密封容器に保存し、品種名がわかるようにラベルを貼り、保管しておきましょう。

ゼラニウムのさし芽

来春のためにゼラニウムをさし芽で育てましょう。冬はあたたかいところで管理します。大きく育った古株は、これを切り詰めて新芽を出してもよいのですが、毎年さし芽をして若い苗を育てるほうが、よく生育します。なるべく太くのびた新しい枝の先を、長さ10～15cmにカットし、植木鉢に川砂か赤玉土をいれてさし床にさします。2週間も経つと根が出てくるので、1本ずつビニールポットや鉢などに植えかえ、少なめに水を与えます。

春咲き球根の仮植



9月も半ばを過ぎると、春咲き球根が店頭に出回ります。花好きの人ならついつい欲しくなってしまうもの。

購入後は、球根の植えつけ時期にはまだ少し早くても、ポットに仮植しておきましょう。そのままにしておくと球根が傷んでしまいがち。特にユリのように球根に皮のないものは、細心の注意を払いたいものです。

スイセンなどの早咲き種も、なるべくすぐに植えつけます。早く植えて根を十分にのばしてやると、よい花を咲かせてくれます。

逆に耐寒性のないフリージアなどの場合は、寒さで傷んでしまう心配があるので、早い植え付けは避けたほうが無難です。

常緑樹の植えつけ・根まわし

●大きな常緑樹の移植



根鉢をつける



植穴は根鉢の2倍の大きさに

年間を通して楽しませてくれる常緑樹。植えつけと根まわしの時期は9月で、なかでもツバキやサザンカ、モチノキなどの太い木で、根まわしをしないで移植する場合は、9月上旬から中旬に行います。

地上部は、幹と太い枝、葉をつけた枝を少し残して、そのほかは強く切り詰めます。幹や枝は、ワラや市販の枝巻き用のテープなどでしっかりと根巻きをし、根鉢もなるべく大きく取って掘り起こして根まわしをします。